

奥州市環境基本計画策定委員会（第4回） 議事録

○ 日 時

令和8年7月22日（水） 14:00～15:50

○ 会 場

奥州市役所本庁舎 7階 委員会室

○ 出席者

委 員

渡邊ユリ、若生和江、渡邊 登、佐々木孝、渋谷晃太郎、花澤 淳、小島尊史、千葉一彦
廣野基宣、本名 満、千田 充、千田有美

事務局（GX推進室）

千葉室長、及川主幹、大内副主幹、後藤主査、小原主査、高橋主任、アジア航測株式会社
（空家対策室）
村上副主幹

欠 席 【委 員】小澤 悟、菊地昭宏

○ 次 第

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 計画策定スケジュールの確認について

(2) 市民意見募集の実施について

(3) 計画案の状況について

(4) その他

4 その他

5 閉会

1 開会（新任委員紹介に引き続き）	
及川主幹	主幹の及川でございます。私の方から会議の成立要件をご報告いたします。本委員会につきましては、奥州市環境基本計画策定委員会設置要項第五条第二項の規定によりまして、委員の半数以上が出席しなければ成立しないと定められております。本日は委員14名中12名の委員にご出席いただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。 それでは、ただいまから第4回奥州市環境基本計画策定委員会を開会いたします。
2 挨拶	
大内副主幹	はじめに渋谷委員長からご挨拶をお願いいたします。
渋谷委員長	皆さん、こんにちは。 今年は、6月はあまり暑くなかったのですが急に暑くなって、昨日、一昨日ぐらいから、全国的には初めて酷暑日と言われる40度超えの町が出て来ているっていうことになってきました。災害級と言っていますが、本当に災害ですね。なかなかこの夏の暑さが止まらない、ますます酷くなっていく可能性があるのかなと思っています。数日前は岩手県にも熱中症警戒アラートが出たということで、熱中症の方も出て来ているということもあります。 また、クマの被害が今年はもう少し落ち着くかと思ったのですが、全然落ち着かなくて。相変わらず毎日のように報道されるということで、環境の話題が流れない日がないっていうような状況になってきていると思います。その中で環境基本計画を作っていくということで、こういった動きをなんとか緩和していければなというふうに思っておりますので本日はよろしくお願いいたします。
3 議事	
及川主幹	委員長、ありがとうございます。続きまして、議事を進めてまいります。議事につきましては、委員会設置要綱の第4条第2項の規定によりまして、委員長に進行を務めていただきます。渋谷委員長、よろしくお願いいたします。
渋谷委員長	はい、それでは早速次第に従って進めてまいりたいと思います。なお、議事が長くなるとしますので、途中でトイレ休憩を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは初めに（1）の計画策定スケジュールの確認について事務局から説明をお願いいたします。
大内副主幹	それでは、事務局、GX推進室の大内の方からご説明を申し上げます。お手元の資料につけておりますA3サイズ・カラーのスケジュール表をご覧くださいと思います。昨年度から計画策定の手続きを進めてまいりまして、およそ一年が経過したところでございます。現在、計画の事務局案についてまもなくお示しできるように、作成を進めているところでございますが、これまでの振り返りをスケジュール表に日付入りで記載させていただいております。あわせて今後の、策定までのスケジュールが迫ってきた中で、今回の資料の方に載せていなかったワークショップ等

	の予定が見えてまいりましたので、口頭で恐縮ですがお伝えさせていただきます。 はじめに、11月の下旬頃に市内にお住まいの外国人の皆様を対象にした、主にリサイクル関係のワークショップの企画をふるさと交流課と調整しながら進めているところでございます。 2つ目です。10月の下旬前後を目処に事業者の方を対象にいたしましたワークショップの企画を進めているところでございます。あわせて現在、東北環境局の方と調整中でございますが、9月の下旬から10月にかけて、気候変動適応計画の策定に関する、自治体職員等を対象にした研修会を環境省主催で奥州市がお手伝いをする形で準備を進めているところでございます。まだ日程等明確に確定しておりませんので、今回の資料の方には現時点で表示はしてございませんが、計画の内容をより深めていくために、様々な方のご意見の聴取や研修等を含めてやってまいりたいと考えているところでございます。 全体の予定としましては、3月末までに総合計画の策定の進捗とあわせまして、本計画の策定についても予定どおり進めてまいりたいと考えているところでございます。スケジュールについての説明については以上です。
渋谷委員長	はい、ありがとうございました。ただいまの事務局からのご説明について、委員の皆様方からご質問、ご意見等ありましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。
都市計画課長	都市計画課の千田でございます。確認させてください。先ほどワークショップということで、11月下旬が外国人の方々、また10月の中旬から下旬にかけて事業者の方々を対象にワークショップを実施するという話を受けました。このスケジュールを見ると10月20日に策定委員会があり、パブコメ直前の計画案を提示されている形になってございますけれども、基本的にはワークショップの内容を踏まえた計画案の検証等については、パブコメの結果と合わせて修正を行って、最終計画案の段階で提示をしていただくという考えでよろしいかどうかお聞かせ願いたいと思います。
大内副主幹	はい、お見込みのとおりでございます。ワークショップの時期が、特に外国人の方を対象にした場合には少し遅めになっておりますが、計画案の内容について、ギリギリまでいただいた内容を取り込む方針です。また、昨年度も外国人向けのリサイクル関係のワークショップをふるさと交流課主導でやっていて、そちらの方に生活環境課として参加しておりました。その時の様子なども踏まえながら、今回の計画案に適宜織り込みつつ、その内容を改めて確認する機会として今年度のワークショップを利用させていただきたいと考えているところでございます。
渋谷委員長	ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。 はい、それでは特にないようですので（１）に関してはこれで終わりたいと思い

大内副主幹	ます。続きまして（２）の市民の意見募集の実施について事務局からご説明をお願いいたします。 それでは、市民意見の募集の実施についてパワーポイントの資料のページ、右下１ページ目の資料をもとにご説明を申し上げます。まず目的でございます。今回の計画の策定作業におきまして、これまで市民等への皆様へのアンケートあるいはワークショップなどにより、様々な形で意見の収集を行ってきたところでございます。 今回、地域気候変動適応計画というこれまで市においても策定したことのない新たな分野の計画の策定を行うにあたりまして、特に対策・取組みに関するご意見というのが少なかったという部分が、これまでの事務局側の分析において浮き上がってきた部分でございます。今回、これから暑さ厳しくなる夏の機会を利用しまして、この気候変動適応分野に関する市民の興味、重要性の認識などを把握しつつ、あるいは具体的な取組みなど、市民の中にある部分、アイデアなどを出していただく機会として位置づけまして、市民への募集を行ってまいりたいというところでございます。あわせて、環境基本計画、昨年度から策定を続けておりまして、既に二年目というところでございますが、その環境基本計画全体に関する興味を改めて喚起するという意味でも、今回の市民意見募集の機会を利用したいと考えているところでございます。 対象は、市内に居住、通勤通学をされている方、募集期間が８月１２日水曜日からおよそ一か月間の９月４日の金曜日まで、実施方法がLoGoフォームというフォーマットを利用しましたウェブアンケート形式でございます。 次のページでございます。現在想定しております設問でございます。個人情報については求めることはありません。性別、年代、大まかな居住地域で質問を絞りまして今回の気候変動適応分野の分野を主に四つに分けまして、災害、健康被害、産業、生活分野というような形で、特に気になる分野の中から選択いただき、それにまつわる取組み項目の中から複数選択いただく形にしております。その他に、ご自身の中で気になっていることや、取り組んでいること、取り組みたいことがあった場合には自由記載でご意見をいただくというところでございます。 その他でございます。 こちらの内容につきましては、国が公表しております、気候変動影響評価報告書２０２５年度版の内容をもとに作成した資料を見ていただいた上で、アンケートの回答を求める予定としております。資料につきましては、読まれた方が気候変動により受ける影響を身近に感じていただけるような工夫を予定してまいります。本日、お手元の方に追加で配らせていただきました、１ページ目が入力フォームになっている資料の方をご覧いただきたいと思います。データファイルでご覧いただいております委員の方につきましては、０６番の資料でございます。 現時点で事務局の方で作成しております、LoGoフォームというフォーマット、ウェブアンケートのフォーマットを利用した入力フォームの予定がこのとおりと
-------	---

	なっているところでございます。特にご注目いただきましたかったのが一番上のところですね、ショートストーリーということで、四話、オムニバス形式で事務局がAIの助けをいただきましてお話を作らせていただきました。災害前夜から災害当日まで、具体的なそれぞれの分野にまつわるような要素を入れたお話を作らせていただいておりますので、こちらを読んでいただいて、ああそういえば雨がひどいなんて言われていた夜のあの時の雰囲気とか、そういった実感を是非していただいて、その上でアンケートの方にご協力をいただくというような、スキームを考えていたところでございます。 この部分につきましては、後でご覧いただければと思っているところでございます。なお、AIを使って小説というような形で作る上で、プロンプトということで、AIに対するその指示事項の入力の部分でございますが、指示事項の中に、先ほど少しお名前が出ました、気候変動影響評価報告書2025と、気象庁が作成しました日本の気候変動関する資料についても参考資料としてプロンプトの中に組み込んだほかに、A-PLATという国立環境研究所の方で作成されている地球温暖化対策関係のホームページがあるのですが、そちらの内容もセットアップを行いまして、AIと私の方でお話のバックボーンを考えたという形となっております。一つの何か楽しみになればいいかなってということでアイディアでございましたので、ご紹介を申し上げます。市民意見募集についての説明については以上でございます。
渋谷委員長	はい、ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明について、委員の皆様方からご質問、ご意見をいただきたいと思います。何かございますでしょうか？
千葉委員	確認ですけれども、市民意見の募集の2ページ目の資料の対象について、市内に居住、通勤通学している方ということでよろしいですか？2ページ目の回答者の属性なのですが、居住地域の水沢、江刺、前沢、胆沢、衣川となっているのですけれども、市外に居住して通勤している人はどういうふうにフォーマットを打つのかなというのはちょっと気になったのがまず1つです。あと、もう1つ目が、これはウェブの回答だけなのですか？ウェブの回答ということは、例えばこの2ページ目の年代ですけれども、80代、90代の方々はウェブで回答するのは難しいのではないかっていうのが率直な意見です。あと、ウェブの回答というのはどうしても30代、40代の若い方が中心で、今の日本のあり方からすると市民の意見を募集するっていう意味としては正しいのかどうか判断がつかないですね。その3点、質問させていただきました。
渋谷委員長	はい、ありがとうございます。
大内副主幹	お答えいたします。一点目、居住地域のところですね、確かにご指摘のとおり5地域ということに表示しておりますが、実際のLoGoフォームの方では、こちらにもう一つ、「市外」という選択肢を設けさせていただくのがいいかなと今思ったところ

	でございます。 2点目の年代についてですが、80代から90代以上、そこで区切ってしまっていていいかどうかについて、私の方も考えたところでございまして、例えば70代以上としてしまう括りもありかなとは思ったのですが、それまでが単純に10代刻みできておりましたので、可能性として準備をさせていただく方がいいのかなと思つての80代、あと90代以上ということを書いたところでございます。ご指摘のとおり、高齢の方でスマホとかパソコンとかというところにあまり普段馴染みがないというケースであれば、そのあたりでご回答の方の比率は下がる可能性はございますが、現状、最初のお話にありましており、今回はウェブアンケート形式のみを想定しているところでございました。結果としてご回答がない区分が発生する可能性もあるかと思いますが、選択肢としては設けたところでございます。 最後のこのアンケート自体の有効性というような形でよろしいでしょうか、その理解が追いつくかどうかというところの部分と兼ね合わせてというところでございますが、その部分をできるだけなんとか具体的にになるようにということで、ショートストーリーを準備させていただいたということと、あわせて選択肢として対策、ご自分のやったほうがいいかなというような対策の選択肢についても、こちら先ほどお名前を出しました国立環境研究所の運営するA-PLATというところで紹介されているそれぞれの災害、熱中症、あるいは感染症とかですね、それぞれの分野における具体的な対策の方を挙げさせていただいております。こちら私の方で、取りまとめをしまして、実生活の中で具体的にイメージができる選択肢の表現になっているかというところで考えておりますので、例えば災害に備えて具体的に「この部分」を選んでいただくという時点でも結構でございますが、気候変動がなくても、地震とかの災害であっても必要な対策っていうのは多分入ってきているのが災害の分野の選択肢があると思いますので、このあたりは仮に、具体的なその気候変動の仕組み自体がご理解いただけなかったとしても、台風が来た時どうするよね、どうした方がいいよねというようなイメージからで結構ですので、なんとか選択をいただければいいかなとして仕組みを作ったところでございます。以上です。
若生委員	先ほど、興味関心がちょっと薄かったのでウェブでアンケートを取りますっていうお話だったんですが、そもそも、このウェブのアンケートにどうやって誘導するっていうか、みんなここに答えてみようかなっていうふうにする工夫やお考えはあるでしょうか？
大内副主幹	はい、お答えいたします。ウェブアンケートという特性がありますので、市が運営するインスタグラム等のSNS等でこのことを期日が近づきましたらニュースとしてアップをして周知を図りたいと思っております。先日、総合計画の方でもウェブ限定のアンケートをやっていたところでございまして、そちらの方では、回答数が多かったと聞いております。今回も、SNSで環境基本計画の策定について発信をしながら、市民の意見聴取に使わせていただきたいなと思っているところでござい

渋谷委員長	す。
花澤委員	はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。 今のウェブアンケートのところなのですけども、今ストーリー読ませていただきましたが、私が普段環境に触れているからなのかどうか分からないのですけれども、インパクトが少なく、読んでなにか心に残るのかなっていうふうな感じを受けたのですね。多分これぐらいのことは一般の方は分かっているけども、その他に生活の中で優先することがあるから、普段はこう、あんまり見ないようにしているっていうような状況を、改めて環境への取組みを喚起させるような内容になっているのかなと、そうではないような感じがして、さらにストーリーを読ませるってことは、それだけアンケートの回答に時間がかかるってことなので、なんかハードルが上がることになっているのかなとも思います。 まず一点確認したいのは、ストーリーを読んだ前後で、アンケートの結果が変わることを想定されているのかどうかということ、もしくはその課内でやってみて、アンケートの結果がストーリーを読んだ前後で変わったのかっていうこと、それと、動画とかにこれを変換させて、もっとみんなが見やすいような工夫をすることはできないのかっていうこと、もし効果があるのであればいいですけど、そういったところを楽しんでもらうことが目的っていうか、もっと身近に感じられることが目的っていうのだったら、ちょっとただ読ませるストーリーじゃなくて振り切った工夫が必要なのかなというふうには感じました。
大内副主幹	お答えいたします。振り切ったということで、例えばもっと甚大な被害が起きるとかですね、急激な変化がっていうところを当初AIも書いていたのですがそれを落着かせたのは私です。というのはイメージが、気候変動影響評価報告書では2030年、2050年、2100年という、それぞれの分野ではかなり幅広い予測を立てているという部分がありまして、農業にしても熱中症にしても、もっと近いところではすごく酷くなるし、100年後こうなるよっていうところも振れ幅が広がったので、今回のそのストーリーの時間軸をどこに置くかというところを、あまり現状の生活から変えないところにまず置いたのが最初のスタートラインになっておりました。なので日常生活の中で、人がバタバタと倒れていくような表現もできなくはなかったのですが、ちょっとそれだとあまりにも、市役所が出すストーリーとしては、そういうことを現状で今、目に見えて起こっているのか、そこまでではないというところのギャップがありますので、その部分はある程度調整をしました。 あくまで、今回のストーリーにつきましては、実際の選択肢を選んでいただく上で「こういうことが国として想定されているのであれば、こういうアクションをした方がいいのではないか」という直感的な選択をしていただければ十分と考えている部分がありましたので、ストーリーを読んだ前と後で何かしら選択肢が変わるかどうかっていうところまでは実際には検証を行っているものではありません。

	あくまで「気候変動によりこういう影響が想定されています」と、2030年には現状の猛暑日が5.3倍になりますとか、100年に一度だった大きい強雨とかが、100年に99回になりますよとか、そういう部分については、最後の資料としてまとめたもの、一枚物で出していますが、それを提示してもそこに実感が伴わなければ、興味というかどうか気をつけたらいいかという気持ちが喚起できないのではないかというところから、より普段の日常の中で、ふと気づく友人、家族の会話の中でそういった変化を、日常生活をあまり乱さないレベルで登場させたというのが今回のコンセプトになっております。以上のような説明になります。
若生委員	文芸作品のような感じで、読み込むのが好きな人はすごい読むと思うんですけど、もう少しシンプルに、同じ話の中身でもいいので、もうちょっとシンプルにサクッと読んで「ああ、ああ、ああ」って思えるような感じでもいいのかなっていうふうな気がしたのですが
大内副主幹	文字数については、AIへの指示事項として大体、原稿用紙三枚程度という形でオーダーをしています。先ほど花澤委員からのご指摘もありましたが、動画とかでというのは、市役所の契約しているAIでは不可能です。大変恐縮ですが、文字で表現するのが限界というところがありましたので、こういった形のストーリーという形の表現を入れさせていただいております。文字数は短くすることについて、ちょっとトライをすることは可能ですが、そのあたり、作者と言ったら非常におこがましいところではありますが、一定程度愛情が入っている部分もありますので、このあたりは、読みやすさという観点で、もう1回見てみようかなっていう形で考えているところです。以上です。
花澤委員	例えば、ストーリーあってこのアンケートに答えるとなったときに、アンケートの項目として、例えばストーリーを読んで何か感じましたか？とか、そういうストーリーと直接結びつけた質問がないので、ストーリーを出したことが果たしてどんな結果が得られているのかってというのは見えてこない部分があったので、その辺はもし出すのであれば、あった方がいいのかなとは思います。
大内副主幹	お答えします。設問数については逆に、アンケートの回答にかかる時間の部分を気にした部分もありまして、本当にコアの部分だけ今回、設問として盛り込んだところでございます。ストーリーに関する所感について、このあたりは設問として聞いてみていいのかどうか、あるいは自由記載というところに混ぜてしまうっていうのも手かなと思っています。できればテンポよく、スマホの上で3つチェックボタンを押してすぐ終わりというレベルのアンケートを目指しておりましたので、そのあたりストーリーを読んでどう思いましたかという部分を、自由記載のような形で混ぜるのもいいのかなと今思ったところでございます。以上です。

千葉委員	意見募集についての確認だったのですけれども、2 ページ目の（2）の③なのですが、意見募集についてやってみたいもの、興味がある項目を選択とあるが、これについてやってみたい、または興味のあるもの3つ選んでくださいという理解でよろしいですかね？
大内副主幹	はい。
千葉委員	個人的な意見なのですが、興味があるっていうのと、やってみたいっていう実行する意思ですよね？興味があると実行の意思っていうのはまた違うのではないかと 思って、そうすると例えば、興味はある、やってみたい、既にやっている、まったく関心がないといったような選択肢の方が意見を募集するにあたってはいいのかなと感じたところです。
大内副主幹	ありがとうございます。ご指摘の部分につきましては、LoGoフォームの設問の文章の中でちょっと注意をして言葉遣いはもう1回検討してみたいと思います。 今回の選択肢に載っておりますのが、厚生労働省あるいは環境省等の方で健康分野だったり、災害分野という中で挙げている項目の中で取組みの主体が事業者、市民といった形になっていますが、特に市民の方が個人として取れる可能性があるアクションを並べております。今回、特にお聞きしたかったのは、計画の中の気候変動適応計画に該当する部分の中で市民の取組事項として、どういったのをまず一番に上げていくべきかということをお聞きしたいと考えていました。そのため、興味があるというような聞き方はちょっとそぐわないかなという考えになりました。そのあたり、設問の文章表現の方で、やったほうが良いと思ったことはなんですかっ ても書いてはいるのですが、方策として、あなたが取り得る選択肢の大事だと思うものをお聞きしたいというようなニュアンスに変わるように、考えていきたいと思 います。
渋谷委員長	この設問で、選択肢としてやってみたい、興味がある、やったほうがよいと、これちょっとずつニュアンスが違いますよね、どれをどういうふうに聞かっているのは検討していただけると。
大内副主幹	はい。
渋谷委員長	お願いします。他にはいかがでしょう
渡邊委員	少々意図がよく分かりにくいというのが正直なところです。それは、その調査をすることによって例えば、こういう取組みを3つ選ぶと。その多く選ばれたものが何の根拠になるのかっていうのは、調査上としてはちょっとどう判断していいか分からないです。選んだ人が多いから取組みとして優先したという話で良いのか、例

大内副主幹	えば、市として実際にこういう取組みが適切で望ましいっていうのがあって、それを確認するためにこういう方法を使って結果として現れるのであればいいけれど、そうではなかった場合はということなのか、それとも別にこういう取組みをしてほしいということなのか今一つつかめない。今回、それが出たらそれを優先的に取り上げていこうということなのか、どっちでしょうか？ お答えいたします。現在、回答の選択肢として 15個ぐらいずつ載せておりますのは、実はどれも対策としては、やっていただきたい対策を並べております。このため、回答数の濃淡があったとしても薄いところを排除するというわけにいきません。なので、一番初めにこの市民意見募集の説明の際に一つ最後に付け加えた部分があったのですが、その環境基本計画とか気候変動適応分野に関する市民の興味喚起をこの意見募集において求めていきたいというのがまず一つあるということと、もう一つは、例えば設問としてやった方が良いという聞き方になっているので、やった方が良いということで選んでいただいたものを計画上の市民の取組みとして挙げ、最後に行政がそれをどう応援するかというスタンスで結び付けていく部分があります。その際により市民の意欲が強いところを応援していくことが、気候変動に関する対策を加速させる上で必要と思ったところです。
渡邊委員	そうなるやっぱこのウェブ調査をやる意図から考えると、まさにこれを多くのの人々に参加してもらってとにかくこれを読んでもらわないと。いわゆるアクションリサーチってやつですね。それによって実際に現状を理解してもらう。だから結果はもちろんあるのだけども、結果もさることながらとにかくこういうことが現状としてあり、それに対してこういう取組み方法があるのだということをより多くの人々に知ってもらう。ワークショップもあんまり参加しているわけじゃないじゃないですか、そういう人も含めて、ランダムサンプリングで選んだ人はもちろんランダムで選んでいるから代表的な意見にはなるけれど、多くの人が知ったということには全くならない訳で。その点この調査であれば、多くのの人々に参加してもらうことによって、こんな取組みを知ってもらうということが大事な目的なのかなと私は捉えています。
大内副主幹	お話をまとめていただいた形で大変ありがたいです。どの選択肢も取組みとして知っていただきたいし、すべて実行していただきたいし、ここに書いていない選択肢も当然あるという意味で、今、渡邊委員がおっしゃったとおりこういう選択肢、こういうふうな取組みが実はあるのですよと、そういうのを参加することで、参加者の方に知っていただくという部分の機能というのは非常に今回重要だと思っております。
渡邊委員	そういう意味で言うと、読んでいただくことに意味があると思うのならやっぱり、より読みやすいというか、さっきのストーリーもよくできているなと思いま

	したけれども、確かに読むことがあんまり好きじゃない方であればこれ面倒くさいな、やめようと思っちゃうかもしれないですね。そうであれば動画作成ってそんなに高いのですか？無料というのもあったりするのですけれども、AIの無料動画作成とか。それはあんまり信頼性が無いと思われるかもしれませんが、そんな高いのですか？これが例えば1分とか、あるいは30秒とかで4つ話を見るってなったら結構動画はみんな見るじゃないですか、それができればもっといいのかなって。農業編だったら草刈りやっているとこも動画で見られれば。予算のことは分かりませんが。どのくらいお金かかるのか。
大内副主幹	ありがとうございます。ちょっと確認をさせていただいて、これ自宅のWindowsのAIで作っていましたので、ちょっと動画が得意な他のAIの方に試してみるかという気持ちにはなっていますが。はい。ちょっと確認をさせていただいた上で、可能であればそういったご意見、もちろん動画ができれば最高なのですけども。
渋谷委員長	今、やった方がいいっていうのを3つ選んでくれって示し方をしているのですが、選ばれたものは関心が高いからいいですけど、これ全部実はやってほしいとすれば、選ばれなかったやつをやってもらうにはどうするかということを考えなければいけないかなと。お金がかからないですぐにできそうなものと、お金かけないといけないものがあったら、たぶんお金をかけるやつは選ばないってなるかもしれないですね。その時に、なんで選ばれなかったのかなっていうのがあって、そこで行政が支援しなきゃいけないのかなっていうのが出てくる可能性もあるので、どういう設問にするかと、選ばれなかったものについてもよく考えないといけないのかなって思いました。まだちょっとだけ時間があるのでしっかりご検討してやってもらえればと思います。よろしくお願いします。
渋谷委員長	それでは、様々なご意見をいただきましてありがとうございました。(2)に関する協議についてはこれで終わりたいと思います。続きまして、(3)の計画案の状況について事務局からご説明をお願いいたします。
大内副主幹	それでは(3)の計画案の状況についてでございます。ここからは二つの資料を見比べながらご説明をさせていただきたいと思います。一つ目、これまでご覧いただいていた協議資料と、もう一つは追加提案ということで一緒にお届けした資料の方でございます。データでご覧いただいている方につきましては、01番と03番でございます。 はじめにメイン資料の方、ページ数が多い方の資料の方でございます。再確認ということで計画の構成について、簡単でございますが図式化をさせていただいておりました。内容はこれまでの説明のとおりでございます。次のページでございます。分野別環境像と環境目標についてでございます。事務局で、今年度になって新たに公開された各市町村の自治体の関連計画なども確認した上で、計画の取り扱い

のトピックと、計画の柱、分野について提案をさせていただきたいと思います。

ここで比べていただきたいのが、メイン資料右下4ページと追加提案資料の1ページでございます。追加提案の方が執筆を進めるにあたって、より効果的にお伝えしたい中身をまとめられるのではないかとということで、分野別環境像の言葉遣い、環境目標の統合などを図っています。それでは、追加提案の資料の方を中心に説明をさせていただきます。

はじめに、これまで地球温暖化と気候変動適応につきましては、それぞれ一つの柱というところに位置づけておりましたが、気候変動という大きな区分でくくりまして、緩和と適応の面からセットでご説明をするというような形を検討しているところでございます。分野別環境像と環境目標については、変わらないところではあります。環境目標の適応のところでございますが、より命に関わる内容から目標を置く順番を整理してはどうかというところでございます。これまでは防災対策、健康被害、産業分野、生活分野というところではございましたが、一番皆さんの命に関わりが大きい熱中症というところで、健康被害を一番に、続いて災害の激甚化等がかなり出ておりますので防災対策、産業と、あと生活分野というような順番ではいかがかなというのが一点目でございます。

続きまして、自然共生の部分でございます。はじめに、環境目標のところの「生物多様性の回復」とこれまで設定しておりましたが、こちら一步踏み込んだ形で、ネイチャーポジティブという概念をより取り込むために、生物多様性の「増進」という二文字に変えさせていただくのはいかがかなと思っているところでございます。

「増進」の定義でございますが、「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」の中におきまして、第2条第2項、「この法律において、生物の多様性の増進とは、生物の多様性を維持し、回復し、または創出することを行う」という定義がございます。この定義に基づいて「増進」という言葉を使うことで、以前の「回復」も含めて、よりポジティブな形で取組みを進めていくという意欲を表せるのではないかなと考えているところでございます。

あわせて、「生物多様性」を一番上に持ってきておりまして、その根幹をなします分野別環境像の表現におきまして、これまで「自然との調和で共に生きる未来をめざす」というような表現としておりましたが、前半部分、自然という言葉がイメージする部分が環境目標の置き方にもよるのですが、植物、あるいは河川とか自然的な環境といいますか、そういったものを重視するよりも、それらも含めた生態系という部分を強調する形で「豊かな生態系の中で共に生きる未来をめざす」というふうに変更するのはいかがでしょうかということが二つ目の提案でございます。

もう一つ、自然共生の分野におきまして、大気の保全、第二次計画のところで大気の保全という環境目標がございましたのでこちらを盛り込んでいたところなのですが、実際、文章を書いてみますと、大気の保全の中身が実際は環境リスク、大気汚染とかですね。汚染物質というところの色合いが非常に強く感じられる文章になってしまっていたので、こちらの部分は「自然共生」から「生活環境」の「環境

	リスク」の低減の中にテーマの一つとして含める形でのご提案を今回させていただきたいと考えたところでございます。 続いて、資源循環の分野別環境像、スローガンの部分でございますが、こちらについては、「資源の輪で持続する社会をめざす」となっておりますが、もう少しダイレクトな表現ということで、「資源を循環して持続する社会をめざす」という表現はいかがでしょうかという提案でございます。 最後に、「生活環境」のところですが、「一人ひとりの取組みで安全で豊かな暮らしをめざす」というところでありました。「安全で」というのは、有害物等の環境リスク等の管理とか市街地での様々な野生鳥獣との関わりなどを強調した意味で「安全で」という言葉遣いをしておりましたがウェルビーイングという大きな国の概念に則す形で表現を見直しました。また、岩手県の計画でも同様の表現をとっていますが、「一人ひとりの取組みで快適で豊かな生活環境をめざす」という分野別環境像の表現はいかがかというところのご提案でございます。 次のページのトピックの方でございます。 追加提案の資料の２ページ目で、右下の番号２ページ目でございます。今の部分をこの円環表現のところで組み替えたものがこちらということになります。今まで大きな柱として六本柱であったものですが、大きな柱としては五本柱にしつつ、気候変動適応計画と地球温暖化に対する実行計画という区分を、ある程度明確に設けながら、「気候変動」の中に位置付けて、緩和と適応という形でそれぞれの計画を盛り込むというような柱に変えさせていただくのはいかがでしょうかという提案でございます。 以降の計画案の状況につきましては、現在執筆等を進めている状況をコンパクトに説明させていただきましたので、こちらは参考にご覧いただければと思います。提案事項につきまして今後、文章を確定させていく上で大きな変更という部分になりましたので、ぜひ今回の委員会で方向性について決定をしていただければと思います。以上です。
渋谷委員長	はい、ありがとうございます。かなり変わっていると思いますので、ただいまの事務局の説明についてご意見、ご質問いただきたいと思います。
若生委員	今回の変更案のほうがよく分かりやすくなっているなと思いました、というのが一つです。聞き慣れない新しい文言がたくさん出ているので、私も自分で調べてみたのですが、後で注釈はつけるとは思います、言葉の意味を調べるとすごくピッタリだけどまだ知らない言葉がたくさん出てくるのでそのあたりのところをどう分かりやすくお伝えしていくかっていうのが大事ななと思いました。それぞれの分野は変更案のほうがよく分かりやすくなっていると思います。
渋谷委員長	トピックの中に横文字がいっぱい出てくるということですね、ありがとうございます。

大内副主幹	ありがとうございます。ご指摘のとおり例えば、リジェネラティブ農業とかアニマルウェルフェアとかですね。実は機会をいただいて、花澤委員からもアドバイスいただいて「今後の十年間を考える上では、こういった今より一歩進んだ先の言葉も盛り込むべき」というご提案をいただいた経緯がございまして、横文字系が入ったところがございます。ご指摘のとおりこれを全部、本文にただ入れてしまうとよくわからない文章になってしまうということがありましたので、こういった特別にお伝えしたい、あるいは興味を持っていただきたい言葉などについては、コラムの形で写真や図表を活用しながら、特出して紙面上の配置を取っていききたいと考えているところと、あわせてそのコラムについても、コラムの一覧というような形でどこにどういうコラムが載っていますよというのが引けるような形の索引機能も計画内のページでは持たせていきたいと考えているところがございます。以上です。
若生委員	結構大事なことがこの新しい言葉が出てくるところにいっぱい入っている。例えば有機包装だけじゃなくてプラスチックそのものが資源として利活用につながっているというようなことがここに実はその言葉で載っていたりする。農業の部分でも大規模化、集約化だけではない視点が本当に大事なと。森林についても経営が難しい状態のところを環境という視点で取り組んでいくと、奥州市の林業の経済効果も上がり、奥州市としても二酸化炭素が吸収できる数値が変わりますよとか、いい視点がいっぱい入っているので頑張ってください。
小島委員	資料を初めて見てご質問なのですが、ビフォーアフターでいうとアフターのほうが概念の大きさとか、くくりとかも大きくなっていて分かりやすいのかなという印象を受けたのですが、優先順位っていうのは、全部やることは全て必要なのでしょうけど、その中でも優先順位があったりしていいのかなと思ったりとして。そのあたりどう検討されるのかなというところを聞きたいです。
大内副主幹	お答えいたします。優先順位につきまして現状、追加提案の方の1ページ目の上から順番に、より影響度が高いという順番で並んでおります。ただ逆に、一番下の環境人材につきましては、すべての分野を網羅する人材を育てる、支えていく人材を育てていくということになりますので、すべてのベースになるというような見方もできるような形になります。そのあたりの表現、関係性等の表現につきましては、第二章の中で分野別環境像を初めて紙面上紹介するというページが出てくるのですが、その中で図式化した形でお示しをしまいたいと思います。 重要度ということでありましたら、より人命に近くて損害、実際の災害とかそういう意味で具体的な損害と背中合わせである「気候変動」、まずこれをたくさん長い（計画全編の）文章になっていく中で、最初にまず目に留めていただきたいと、今回の計画上の中で、新しくこれを組み替える中で着目した特徴になるかと考えております。

渋谷委員長	改定前の環境基本計画は、当時のごみとかいろんな問題が大変だったので、こういう順番になっていたのですが、今となっては毎日暑くて大変だっていうこと、当時と比べると全然気温が違うということで分野の重要度が変わってきています。 生物多様性というのも最近出て来て世界中で問題になってきている、重要度が変わってきてこういう順番かなっていう気がするのですが、順番としてはこんな感じでよろしいでしょうか。
渡邊委員	前から感じてはいたのですが、例えば地球温暖化ですよね、地球全体での温暖化っていうのが進んでいてそれが私たちの生活、社会、経済に影響を及ぼしているっていうのは事実ですけども、なんか急に地球環境の保全をめざすって言われても、ドキッとしそうな感じがして。実際には地域社会に求められているっていうのは、持続可能な地域社会をどう作り上げるかっていうことですよ。あるいはあの地域循環共生圏ですね、そういうことじゃないですか。そういう地域をめざすっていう、そのモデルをたくさん作ってほかの地域もそうなるようにしてもらいたいっていうことだと思うのですよね。確かに地球温暖化なのですけども、私がこの地球をめざすのかってなんか大きすぎる感じがしていつもたじろぐのですが、そう思わせてしまうのではないかと気になります。
大内副主幹	お答えいたします。最初に古い方の分野別環境像の表現を考えていた時に、それぞれの分野の対象の世界の規模をばらかしたというのが実はあります。社会だったり、未来だったり、暮らしだったり、地球だったりということで、できるだけいろんな方向性を向いてこの計画が守備範囲としていますよという表現を考えていく中で、地球という言葉しか思いつかなかったというのが一つでございます。 あわせてこの部分、既に現状の分析については、分析して文章化していたところではあったのですが、どうしても地域という狭い範囲で書いてしまうと、「どうして私が世界のことを考えなければいけないの」というようなところ、この分析が世界に果たして結びついているかどうかというのが確かにあったにはありました。 そのあたり全体的な分野別環境像が並んだ時の、調和とえばいいでしょうか、非対称が映し出すその計画の範囲の広さと言えればいいでしょうか、という部分の文章としての効果と、実際地球以外に、例えば地域とかより身近なその二文字に置き換えた時に、もうちょっと文章のところで書いてみた中身と合うかどうかというのを並べてみないと、ちょっと今お答えしかねるかなというのがありましたので、もし地球以外で何かご提案のお言葉があればそれを当てはめてみて、あとは実際に計画案としてお示しする中で、書いている中身が環境像の表現として合うかどうかという部分も考えていかなければならないので、もしそのあたりご提案いただけるお言葉がありましたら助かります。
渡邊委員	別に突拍子のない言葉はないのですが、考えてみると環境目標にしても例えば省

	エネ、再エネ、温室効果ガス吸収とか、事務事業もそうですよね、健康被害も産業分野の対策、防災対策、生物多様性の増進は地域でどうやって増進していくのかわかってちょっと考えさせられましたけど。とにかく、これは基本的にやることは全部地域の中でやるわけですよね、であれば別に「地域」でいいのではないかと私は思うのですよ。
若生委員	宮沢賢治さんも言っているじゃないですか。一人が幸せにならないと、みんなが幸せになれないですって。だから、私たちの住んでいるこの地域がちゃんといろんなことを考えながら一人一人がやっていくようになると、やっぱりそういうのは地球までつながるよということで、それにつながることをネイチャーポジティブのコラムのところとかで書いてもらえば良いのじゃないかなと思いました。
渡邊委員	「グローバルに物事を考え、行動は地域で行う」というのがグローカリズムですけども、環境問題に関して地球規模の話になるというのはまさにそういうことですよね。だから文章としてはまさに地球のことを考えてやるわけですよ、グローバルなことを考えないと実際には地球は変わらないわけですけども、でもグローバルな対策をとるって、できないじゃないですか地域社会のなかでは。だから、地域の中では地域を、まず目標の実現に向けて精一杯努力するということかというと「地域」でいいかなと私は思いますけどね。それこそまさに身の丈に合った等身大の計画になるのではないだろうかって勝手に考えておりますが、いかがでしょうか。
花澤委員	奥州市の環境基本計画で、これを読んだ奥州市民が自分事して捉えるようにできるのが一番いいので私も「地域」のほうがいいと思います。
渋谷委員長	ありがとうございます。結局、地域での取組みの積み上げが地球に広がっていくというところであれば、奥州市の計画であれば地域、本文のところにそういう趣旨を書いていただいて地域の取組みが地球全体に繋がっているということを書いていただけると繋がる気がします、ご検討いただければ。
大内副主幹	かしこまりました。
花澤委員	今気づいたことをよろしいでしょうか、自然共生のところの森林や河川の保全とありますが、保全だけだと守ってあげるみたいな、共生とは離れた言葉になるので、保全ではなく共生につながるような書き方でやっていただきたい。 2つ目が、生活環境のところでは一人ひとりの取組みでとありますが、内容がすべて一人ひとりの取組みで行っていくことなので、わざわざここで強調しなくてもいいのではないかと思います。最後が、環境人材のところでは「環境を知り育む人をめざす」のところですが、「育む人をめざす」の部分が分かりにくい、くどいような気がします。よく読めばなるほどと分かりますけど、もっとすんなりと入っていけ

大内副主幹	る文章にできないかなと思いました。 一点目の森林や河川の保全についてですが、私も自然共生と生物多様性、一つとして何か保全以外にないかと考えたところですが、ご指摘も含めて悩んでいるところでございます。 二点目の生活環境の「一人ひとりの取組みで」という部分でございましたが、こちらで生活環境課として日々の業務にあたっておりまして、様々なそのリスクに関する相談を日々、電話や窓口でお受けしております。隣の家草のことから、隣の家臭が、音がということですね。それすべて、お互い一人ひとりのそれぞれの配慮不足も含めて起こりうる事象というところで、ここに関しては、一人ひとりが本当にお互いを思いやって気をつける、その一番小さな単位でこの生活環境の取組みをしていただくことの方が、より個々の問題の解決につながるのかなという、日常の業務の経験から出た言葉でございました。 最後、環境人材でございます。例えば「環境を知り」のあとに「環境を」という三文字を入れるというのはいかがですか、「環境を知り環境を育む人をめざす」というような形だと、「育む」と「知り」がちょっと離れますので言わんとしていることが、どういう人材が欲しいのか、これから生まれてきて欲しいのかというふうになるのかなと思いました。3点目は提案でございます。
花澤委員	「人をめざす」というところがしっくりいかない。人を育てることで環境が良くなるというような書き方で何かうまいこと考えられないかなと思いましたけどどうでしょう。
大内副主幹	語尾の「めざす」につきましては、最初の時にご説明したのですが、今回の環境基本計画におきまして、その主役については市民や事業者の方であるということです。当然、市も行政としてその主役の一つになる分野はあるのですが、 なので主語を何でも当てはめられるように、かつ決意表明のようなイメージということで、全て最後の言葉を「めざす」でまとめたところでございます。もし可能であれば「〇〇をめざす」の最後の「めざす」については、もし変えないとすると何か他の言葉がないかなということで、ちょっと考えることになろうかと思います。
花澤委員	「めざす」にこだわるのは分かりますが、大内さんがおっしゃるように環境人材だけ全部に関わる場所という、ちょっと他のグループと違うニュアンスがあるということなので、そこをあえて、ここだけ変えてみるっていうのも他と差別化できていいのかなと思います。
大内副主幹	思い切りコンセプトを変えるということになると、次、お話しする中身で、スケジュール上、残りおそらく0.5日ぐらいでここをまとめなきゃいけないということに

	なるのですが、趣旨については多分人づくりということで、そこはご理解いただいておりますので、それでは、この環境人材の分野別環境像のスローガンの一文については、ここも含めて後ほど説明する計画案に関する意見募集の中でご提案をいただくのはいかがかなと思います。ちょっと半日では無理なのでここはちょっとお時間をいただいて、変わる可能性を前提にご提案をいただくということをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
若生委員	山に住んでいる者としてですが、共生とかの言葉も大事だけれど保全という言葉を残してほしいと思います。今までは地域の人が道路沿いや河川の木を切ったり、草を刈ったりして保たれていましたが、みんな年をとってそれも大変になってきています。そうした管理が交通の安全な通行や、雨が降った時の河川の増水を防ぐとかそういう部分に直結している状況なのだと道路を走っていると感じるのです、そう考えると保全という言葉も大事かなと思うので、検討してほしいです。
渋谷委員長	ありがとうございます。私の方から地域の話の前に、脱炭素化っていうのは今あまり使わないのでは。脱炭素でいいのではないかって、脱炭素って本当にできるのかということもあるが、脱炭素化ってよく意味が分からない。用語についてもう一度皆さんよく見ていただいて、しっかりこないのものもあるかもしれないのでご意見はまた後ほど頂くようにしてもらいたいと思います。
大内副主幹	はい、ありがとうございます。最後の委員長の「化」を取ることも含めまして、今回検討が必要な部分を整理したうえで、委員の皆様にお聞きするという体裁を整えさせて頂きたいと思います。
渋谷委員長	だいたいこの枠組みで作業していただいて、全体を見たときにまた小見出しがしっかりこないかもしれないので、そこはもう1回見てもらうということをお願いできればと思います。よろしくお願いします。それでは、計画案への意見についてご説明をお願いします。
大内副主幹	今の協議の中で意見をいただきたいということで、少しお話をしていたところでございます。現在、古い形の計画案で6割ほど執筆を進めておりまして、主に現状の分析等になっておりますが、そのあたりで180ページぐらいになっておりました。これを今、シェイプアップするのとあわせて、今回いただきました新しい構成に基づく内容にすべて組み替えた形で印刷を行いまして、来週中に委員の皆様の方にお届けをして参りたいと考えております。お届けいたしました計画案につきまして、お気づきの点あるいは、表現等を含めてご意見をいただく機会ということで準備をさせていただきます。意見のご提出方法につきましては、メールアドレス等の方ということでありますが、もしこれらがなかなか難しいという場合につきましては、大内あるいはGXの高橋の方とかに様々な形で結構ですので、場合によって

	は直接話したいのだというようなことでも結構でございます。具体的にご意見を伺ってまいりたいと思います。その中身をどんどん入れながら計画案の方をバージョンアップさせていきたいと思います。 なお、今回ご提示する計画案につきましては現状の分析まででございます。あわせてコラムの方が一部入っております。指標と取組み等につきましては今後、庁内ワーキンググループ等の調整を行いつつお示ししていくという段階を踏んで参りますので、現状は今の状況についてこういうことをこういう視点でと、先ほどのトピックの中身について書いたものをお示しするという予定でおりますので、よろしくお願いいたします。 あと、計画案のファイルが非常に大容量になりつつあります。パソコンじゃないとおそらく開くことが難しいと思いますので、基本初回については紙印刷したものをお届けいたします。そのやり取りの中で一部分であったり、あるいは大きなファイルのやり取りということにつきまして、基本的には電子メールでアクセスしていただいて、大容量ファイルのダウンロードをしていただくということを考えております。後でこれだと難しいということがございましたらお知らせいただきたいと思います。 まず初回につきましては紙で印刷をして、ご意見につきましては、基本的にメール等でお送りして、あるいは直接、面談等で教えていただくということでもＯＫという形で１回始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
渋谷委員長	ありがとうございます。今のことについてご質問等ありましたらお願いします。 それでは、８月７日までにご意見等いただければと思います。それでは（４）その他について、事務局の方から何かございますでしょうか。
大内副主幹	それでは、渡邊委員からご意見を頂戴できるということで、原稿をいただいております。お手元に渡邊委員にお作りいただきました原稿の方をお配りしております。ご意見いただきましたのが４月末でございましたので、原稿内の表現はその時期のものとなっております。あわせて、ホチキスで留めておりますが、お話の中で出てまいりますバーチャルパワープラントに関して補足できるようにということで、資源エネルギー庁のパンフレットを事務局で付けさせていただいておりますので、ご覧いただければと思います。ご発言の内容に関しましてはこれからご説明いただけるということでございますので、渡邊委員、お願いしてもよろしいでしょうか。
渡邊委員	はい、４月末に意見したので３か月経って薄れてきている部分もありますが、大内さんにお示しした内容をコピーしていただいたということで、こちらを読み上げさせていただきます。 まず、前回の策定委員会では、第３次環境基本計画の構成として、分野別環境像

ごとに「現状」「課題」「目標」「取組」「指標」を整理しつつ、「分野横断の取組」や「多面的アプローチ」を重視する方向が示されていたものと理解しております。あわせて、市民・事業者・市の取組をワンセットで示し、相互の役割を確認しながら協働への意識を醸成するという考え方も整理されていたと認識しております。

また、前回委員会の議論では、環境分野を個別に分けて整理するだけではなく、環境・経済・社会の相互関係や、各分野が本来的に結びついているという視点を、計画の前提としてより明確に位置づける必要があるのではないか、という問題意識も共有されたと受け止めております。

私がこの委員会で申し上げたいのは、こうした前回の議論を修正するものではなく、むしろその方向性を補足し、少し具体化する観点を加えるという趣旨です。今回の市民・事業者・高校生アンケート結果を見ると、環境に対する関心や重要度の認識は一定程度高い一方で、取組の実践や拡大には制約が存在していることが読み取れます。たとえば循環型社会分野に関する前回資料では、市民の日常的な取組として「ごみの分別・リサイクル」や「食品ロス削減」は比較的定着している一方で、「取組む機会がない」「情報不足」といった制約も示されており、回収機会の拡大や情報提供の充実が課題として整理されています。

この点は、奥州市議会建設環境常任委員会「奥州市のごみ減量施策に関する政策提言書」とも整合的です。同提言書では、市民、市民団体、事業者、行政が一体となることに加え、ごみ減量を進める基盤と制度的な施策を整えることが提言されております。したがって、個々の意識や努力だけでなく、それを支える制度・機会・基盤の整備が必要であるという考え方は、すでに議会提言の中でも示されているものと考えられます。

このため、今回の委員会では、こうした考え方を、ごみ分野に限らず、脱炭素やエネルギー分野にも応用できるのではないかと、いう趣旨で発言したいと考えております。具体的には、家庭や事業者が個別に努力するだけでは進みにくい取組について、分散している資源や取組を、環境・経済・生活の各面で有効に活かす統合的な仕組みも、今後の検討対象として計画上位置づけ得るのではないかと、いう整理です。その具体例の一つとして、家庭・事業所・公共施設等に分散するエネルギー資源を統合的に活用するVPP（バーチャルパワープラント）のような仕組みも、分野横断の取組の中で将来的な検討対象として捉え得るのではないかと考えております。

なお、ここで申し上げたいのは、現段階で特定の個別事業や制度を計画に明記すべきということではありません。あくまで、前回資料で示された分野横断の取組や多面的アプローチという枠組みの中で、将来的な具体化の方向性を少し見えやすくする、という程度の補足です。

また、この考え方は第2次環境基本計画の方向性とも矛盾するものではないと理解しております。第2次計画は、「循環型社会の構築」及び「市民・市民団体・事業者・市の協働」を重視し、環境を守り育むための道しるべとして位置づけられておりました。第3次計画では、その理念を継承しつつ、アンケート等から見えてきた

	地域の実情や制約を踏まえ、「みんなで取り組む」ことを支える仕組みまで視野に入れることは、発展的整理として十分可能であると考えております。 以上のとおり、今回の委員会における私の発言は、前回整理された計画構成案、分野横断の考え方、議会提言との整合を意識しながら、それらを補足する趣旨のものです。表現ぶりや位置づけについてご懸念があれば、委員会での言い回しは調整可能ですので、事前にご意見をいただければ幸いです。なにかご質問等あればいただければと思います。
渋谷委員長	ありがとうございました。エネルギー系の統合については、宮古市では小さいレベルではあるが地域新電力が中心になって実施しています。地域新電力会社の中核的なものができれば具体性が出てくるかなって思います。
渡邊委員	長野県飯田市でやっていたり、南九州市では行政が地域新電力を立ち上げているらしいです。地域新電力ができると一番良いのですがなかなかそこは予算等の制約があると思います。エネルギーを災害などの緊急時に地域で使えるような取組みができれば、災害に強い地域という形で私たちの将来も持続可能になっていくのではないのでしょうか。
渋谷委員長	ペロブスカイトの太陽電池というのが普及すると、今まで乗つけられなかったものが乗かってきて発電所になる可能性があります。そういうところを地域新電力会社がまとめて作っていくというのがこの趣旨に沿った形になるのかなと思います。あと、FIT終了後に地域新電力会社が安く買い取って蓄電池に供給するというのも始まりだしたりしているので、そういう動きをとらえて先取りで計画に書き込んでおくといいかもしれないですね。
渡邊委員	奥州市は資源が豊富じゃないですか、木材等の資源もさまざまな取組みに活用できる。潜在的な可能性を持った地域だと思うので、それをどう活かしていくかですよ。
渋谷委員長	防災関係でも、最近は何か起きてから対応するのではなく、日常から防災に備える流れに変わってきていますよね。体育館などの避難所になっているところは、普段から快適な状態にしなければいけないと思います。これだけ暑くなると、暑いところに逃げ込まないといけない、逃げ込んだ先で二次災害を生んでしまう可能性がありますよね。体育館などは今でも子供たちが暑くて大変な場所なのでそういう場所を快適にしておけば、逃げ込んだ時にも快適になります。そういう防災も日常的にやっていくという考えもありますね。
渡邊委員	いわゆる断熱ですよ、最近子供たちも参加して学校の断熱を進めていくというのがあります。学校は実際にエアコンが入っていても断熱ができていないから夏

若生委員	は暑くて、冬は暖房いれても寒いと。自分たちの力で断熱材を入れてそれで暖かくなったり、涼しくなったりすれば子供たちも全然違うと思いますよね、自分たちでできるのだということを、身をもって体験していただくということ。そんなにお金もかからないで教育効果もあるし、とてもいいことだと思うのですけどね。 事業者の人たちにワークショップをやるっていったときに話してみてもらって、そこに建築関係の人たちも入れてもらうというのはどうでしょうか。
渡邊委員	こういうことを進めているエネルギーまちづくり社というがあるので、そういう人たちを呼んで、地元の人達に参加してもらえるように広めていければと思います。
渋谷委員長	ありがとうございます。それでは、以上で本日の議事は終了となります。長時間ありがとうございました。事務局に進行をお返しします。
4 その他	
及川主幹	それでは、進行を次第の4 その他に進めてまいります。事務局からなにかありますか。
大内副主幹	ありがとうございます。それでは、次回の委員会のご連絡を申し上げたいと思います。以前にお話申し上げておりましたとおり、次の委員会の予定につきましては、10月20日開催予定としております。会場はこちらとなっております。引き続きよろしくお願いいたします。また、その次の会議につきましては、計画案の進捗、会議会場などの状況などと兼ね合わせて検討を現在行っておりますので、次回会議までにお知らせしたいと考えておりますので、そちらにつきましてもよろしくお願いいたします。以上です。
及川主幹	ただいまのご説明に関して質問等ありますでしょうか。
及川主幹	それでは、その他として皆様方からなにかございますでしょうか。 無いようですので閉会の方に進めてまいります。
5 閉会	
及川主幹	以上をもちまして、第4回奥州市環境基本計画策定委員会を閉会いたします。本日も長時間にわたりまして大変ありがとうございました。